

# 今を未来に

## 2月20日(火) 学校保健委員会 開催される

今年度はテーマを「感染症と薬について～薬をじょうずに使おう～」に、学校保健委員会を開催しました。なぜ今年は「薬」をとりあげたのか、それは5・6年生で行われる宿泊を伴う行事(自然教室・修学旅行)に薬を持ってくる児童が増えていることがきっかけでした。そのため、4年生児童に「薬」についての授業を行うことにしました。

今回の授業は養護教諭の木津と学校薬剤師の筒井先生が進めてくれました。木津先生の方からは、前回の保健指導で学んだ風邪・インフルエンザの予防に必要なことは何であったかという話から授業を始めてもらいました。4年生の子どもたちはよく覚えていて、手洗い・うがい、マスク、換気、歯みがき、食べる(ビタミンA・C)と、確認ができました。そして、体の中には「自然治癒力」があることを確かめました。

では、なぜ薬を飲むのか? 自然治癒力で病気は治るのになぜ病院へ行くのかという所から、筒井先生にバトンタッチしました。4年生には薬に関して事前にアンケートに協力してもらい、その結果を見ながら、薬の種類、薬はなぜ飲むのか(早く治すのに役立つ、健康になるのを助けてくれる)、薬は何で飲むか(お水やぬるま湯が基本、薬によっては飲み合わせで薬の効果を下げるものがある、たくさんのお水やぬるま湯を飲むのはなぜか)、飲み忘れた時はどうするとよいか(2回分・3回分をいっきに飲むことは絶対にだめ、飲み忘れたら次の機会に正しく1回分を飲む)、薬はいつ飲むのか(食前・食後・食間の違い、子どもたちから食間は食べている途中という意見もでしたが、だいたい食後2時間後くらいを食間ということ)、市販の薬の正しい飲み方・選び方(作用・副作用について、市販薬は年齢で制限が表記されている、子どもからは「15歳以上と表記されている薬を13歳のお兄ちゃんは飲んでいる」という話がありました、副作用を感じたらすぐにお医者さんに相談をする)、最後に健康な毎日を過ごすため(適度な運動、栄養バランスのとれた食事、十分な睡眠)が、話されました。

途中で写真にあるような実験も取り入れていただき、子どもたちの最後の感想も「わかりやすかった」「薬のことがわかりました」「知らないことが多かった」「お茶でお薬は飲みません」という



お薬にはどんな種類があるか知っていますか?



なぜたくさんのお水かぬるま湯でお薬を飲むの?



お茶でお薬を飲むと、薬の成分と反応して…

意見が続き、お礼の気持ちを伝えて授業を終えました。

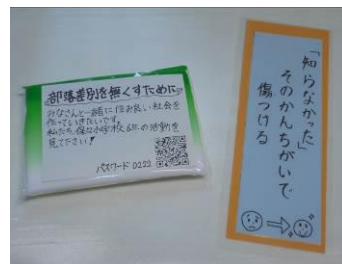
授業後、ご参加いただいた保護者の方と養護教諭・校長が入って、薬剤師さんに質問をする形で、さらに疑問に思っていた事を訊かせていただきました。薬の量は年齢？それとも体重で決まるのか、水以外で麦茶はいいと聞いたことがあるが本当にいいのか、薬の使用期限を守ることの大切さ、ピロリ菌除去ってどうするといいのか、頭痛が不定期にある時市販の薬を服用してよいか、花粉症の薬で市販薬とお医者さんに処方してもらう薬の違いなど、時間があればもっといろいろ訊かせていただきたくなる雰囲気、事後の話し合いの時間がとれました。

## 2月22日（木）6年生 2018 保々小じんけんフェス

前回の学校だよりでお知らせしましたように、6年生の子どもたちが人権総合学習などで学び、考えたことを会場に集まっていた保護者や地域の方に聴いていただきました。今回の活動は、発表のための活動ではないため、途中で止まってしまったり、ハプニングもありましたが、子どもたちが考えていることを、今持っている力で精一杯届けてくれました。

あらゆる人権課題を考える中で、部落差別（そこに住んでいるというだけで差別をする人がいるという問題）があることを知り、そこにつながる自分自身の行動はなかったかと自分や仲間の行動・言動と向き合うことで、「差別をしない、なくす自分でありたい」と強く思いを持ちました。そんな思いをプレゼンテーション（チラシ、しおり、ティッシュペーパーやホームページ、Tシャツ、市長への条例提案）、劇、作文、合唱などに込めました。今まで友だちの思いに気づけていなかった自分、人を傷つけていることに同調したりその問題から逃げてしまっていたりした自分を振り返り、人任せにしないで自分が行動していきたいと子どもたちから思いが語られました。

会場からも、「6年生でここまで考えているとはすごい。自信をもって、自分の思いを人に伝えられる人になってほしい！」とエールをいただきました。この6年生の子どもたちの発信を受け、わたしたち自身も自分に問い直し、考え行動できる仲間でありたいと思いました。



劇「柿を取ったのは誰だ？」



劇「水平社創立大会」



人権作文発表



合唱「心の瞳」